

# 知的に障がいがある生徒の語彙獲得について ーオノマトペに着目してー

## 研究目的

キーワード：語彙獲得、絵画語い検査、語音明瞭度検査、発音明瞭度検査、オノマトペ

本研究は、オノマトペの課題プリントの実施を通して、知的障がいがある生徒の言語発達における語彙獲得の傾向や特性を明らかにすることを目的とする。さらにそれぞれの生徒の特性をふまえ、正確な語彙獲得を支援するための指導法を開発し、その効果を検証することをめざす。

## 研究方法

### 1. 対象

語彙の獲得や発音、発声に課題がある高等部生徒5名を対象とした。

### 2. 期間

令和7年9月から令和7年12月

### 3. 方法

#### 1) 3つの検査の実施

現状どれぐらいの語彙を獲得しているのか、語彙を獲得するまでにどのような課題があるのかを把握する必要がある。そのために語音明瞭度検査、発音明瞭度検査、PYT-R絵画語い発達検査を行った。

#### 2) オノマトペ課題プリントの実施

生活に身近な【動物】【乗り物】のカテゴリのオノマトペをどれぐらい知っているのか、オノマトペに関連する語彙をどれぐらい知っているのかを把握するために課題プリントを行った。

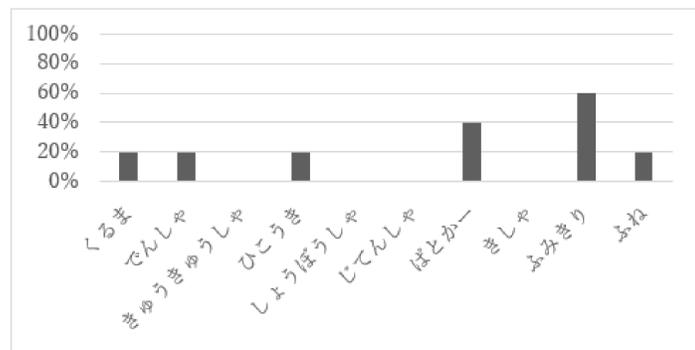
### 4. 倫理的配慮

本研究は大阪教育大学倫理委員会において倫理審査（25128）の承認を受け、保護者・本人の同意のもと行われているものである。

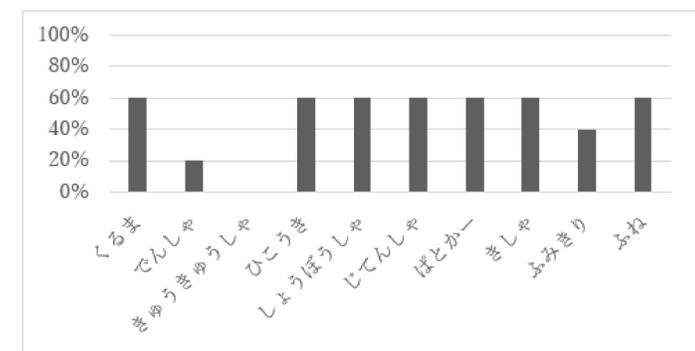
## 研究結果

1. 全ての生徒が発音明瞭度の正しく聞き取れた割合より、語音明瞭度の正答率の方が高い結果となった。また語音明瞭度検査の結果と発音明瞭度検査の結果から生徒5名に共通している点として、特殊音節そして濁音、半濁音への苦手さが見られた。

2. オノマトペ課題プリントの実施結果より、無記入率が低いにもかかわらず、正答率も低いものがあった。例えばカテゴリ【乗り物】にある『きゅうきゅうしゃ』がそれに当てはまる。特徴として長音、半濁音の誤りが多くあった。よってオノマトペにおいても特殊音節や半濁音、濁音の苦手さが現れる結果となった。



カテゴリー【乗り物】正答率



カテゴリー【乗り物】無記入率

## 考察・今後の展望

### 1. 考察

各検査結果が比例していないことから理解語彙が多くても、いざ表記すると間違えてしまうことがあると示唆される。理解語彙が使用語彙になる指導支援をする必要がある。また生徒によって課題となる音にそれぞれの特徴がある。そこには生徒それぞれの実態や発音や聞き取りの特性などが影響していると示唆される。

### 2. 今後の展望

今回扱ったオノマトペを理解することはそれに関連する語彙について獲得することに繋がる。よって今後は様々なオノマトペの理解を促し、今回の研究で得られた実態をもとに、それぞれの実態に応じた指導支援について検討し、実践していくことをめざしたい。